



本年のがまの油売り口上研究会の総会（三月二十五日）終了後、つくば市ジオパーク推進室の杉原氏にご講演いただきました。難しい大地の遺産の価値や魅力を、身近な自然や人々の営みの「なぜ？」と関連付けて、わかりやすくご紹介いただきました。

先日は、『筑波山地域ジオパークの魅力』と題し、講演させていただきありがとうございました。かつては、地球科学分野の教育職・研究職に従事していた私ですが、つくば市役所に勤める二年半前までは、筑波山地域の自然や歴史・文化にはほとんど関心がありませんでした。そんな私が、短時間で知識を蓄え、見識を深めることができたのは、筑波山地域の日本ジオパーク認定にかかる申請書の作成業務でした。申請書作成のため、私は一年半かけて、地域内の地形・地質から歴史・文化・産業に至る様々な書籍や文献に目を通し、休日も家族を連れて、つくば市内はもちろん、石岡市・笠間市・桜川市・土浦市・かすみがうら市を歩き回りました。そのおかげで、筑波山や霞ヶ浦が長い年月をかけた大地の変動でできた偶然的な産物であること、それらの景色が万葉の昔から地域の人々に愛されてきたこと、そしてこの景色をつくる石や土や水が、豊

## ジオパークで地域の価値と魅力を知る

筑波山地域ジオパーク推進協議会地球科学専門員

### 杉原 薫

一般に、ジオパークは「地域内の貴重な地形・地質を守り、その特徴や成り立ちと生物・生態系や歴史・文化・産業との繋がりを楽しく学ぶ場所」と言われています。自身の経験から、私はジオパークを「自分の暮らす地域の価値や魅力を、客観的かつ効率的に知ることができる場所」と考えています。ジオパークを通じて地域に関心を持ち、地域をより深く知れば、その地域の価値や魅力だけでなく、抱えている課題や必要な人材にも気づくことができます。

筑波山地域は、ようやく日本ジオパーク認定一周年を迎えましたが、今後もジオパークの意義を知り、積極的にジオパーク活動に参加される方々が増えるよう、普及啓発に取り組んでいきたいと思えます。



椎尾山薬王院とスタジオの樹叢（桜川市）



普及・啓蒙活動中の杉原氏

ひたちのおた道の駅は舞台さながら…

石月 ひろ子

ひたちのおた道の駅・黄門の郷の周年を来月に迎えるようとしていた六月三日、仲間の尾形志次男さんの多大なる協力を得てがまの油売りの口上を実演することが出来た。

遡ること二年前に、国道三四九号線沿いに道の駅が作られると聞いてから、あの美しいロケーション、真弓山とその下に広がる田園風景を観ながら演じてみたいという思いが湧き上り、それがどんどん募っていった。植田笑子駅長に何うと販売行為に伴うパフォーマンスであること、更に施設使用料が掛かると言う説明であった。私たちは「がまの油」の薬は売れない。過去にお客様から本当に良く効いたので買いたいとの申し入れにお断りした経験がある。販売出来ないのでは、とても実演は無理と諦めていたところ、なぜかお試しの依頼があった。折に触れ宣伝していたことが、功を奏したのか。水戸教室でも新たな公演地開拓の話が出ていたこともあり、早速詳細の打ち合せに入った。

当日は、梅雨時には珍しいよい天気で、客足も上々。道の駅イベント係の方が準備を手伝ってくれ、アナウンス案内も入り、三回の公演のことや演じている間、賑やかな音楽も止めてくれた。細やかな心遣いを感じられた。



いよいよ開演。星野先生はじめたくさんの仲間の応援があり心強く、常に三十人は足を止めて戴けた。時間のある方はゆったりして聞いてくれた。テントがあるので雨にも強く日差しも平気、横風も高さも心配はない。テーブルがあるので食べながら楽しむ。ある子供さんは親に出発を延ばして欲しいと話しており、また、ある団体はウオーキング大会中らしく駅長の案内説明を受けたあと、がまの油売り口上が聞けると喜んでくれた。尾形さんの口上の紙切りは見破ることができない程。科学的で見事だ。子どもたちへのプレゼントもあった。演台は二人分の小道具を全部先に揃えて置き、間なしに続けてみた。忙しかったが、時間の節約ができた。

私は、口上の合間にふる里常陸太田を紹介。黄門様がどうして西山に隠居所を定めたのか？大きな理由が4つあること。真弓山の白い岩肌がよく見え、寒水石（大理石）が取れること、それが国会議事堂や弘道館に使われていること等々。

「念ずれば花開く」との言葉

の通り想いが叶い、地元での実現は私のこれからの人生の励みに繋がった。そして、道の駅々々長より丁寧な礼状が届いた。感動したとの詞と再演のお



許しも頂け、定期実演はこれからの課題になった。道の駅の皆様、水戸教室の皆様、温かい応援を本当にありがとうございます。ひたちのおた道の駅の東に広がる風景を詠み導入に使ってみました。

巨樹の記憶 ～その1

東に臨む 太平洋 西は西山 桃源郷  
鯨が丘には 夜街の灯り  
神々宿って 常陸の五山  
巨樹の祖父杉 深呼吸  
遠い記憶がよみがえる  
私の一息 黄金のふぶき  
金の波 銀の波風 稲穂が躍る  
真弓千石 ホラ 見てごらん  
ザッザザ ザザーザ ザザーザザザ  
真弓天狗が 大空駆けて  
寒石落として 眼を見張る

平成29年度  
がま口上講座

- 開催日： ① 9月23日(土)  
② 10月7日(土)  
③ 10月21日(土)  
④ 11月4日(土)

午前10時～正午

場所：土浦市立『小町の館』

定員：30名

受講料：無料

\*興味をお持ちの方がおられましたら是非お誘いください。

平成二十八年十月二十三日、秋風すがすがしい日本晴れの日。七十三歳にしてこの様な出で立ちで大道芸を披露するとは、思いもよらない事でした。当日、女房が「私も観たい！」と言いだし、御目付役が同乗することに。握るハンドルの重さを感じました。山口東鶴さんが、私の指導を兼ね御共演頂けたのは勇気百倍、心強いものがありました。

公演会場は早朝から家族連れで賑わう「下妻道の駅」でした。天気も幸いし、大勢の皆さんが足を止め、拙い演技に拍手を頂戴したのは望外の喜びでした。さて、女房に言わせば、堅物の私が、ここまで変身出来たのは大成功とのこと。自身の来し方を想い返せば、女房の言も心地よく耳に入りました。

私は、定年退職まで、郵政省電波研究所、宇宙開発事業団の研究・開発部門に在職し、宇宙開発一筋の人生、言わばガチガチの理系人間に出来上っていました。

多くの方は「林住期」に足を入れれば、世の中の風潮にある種の違和感を覚え、また己の来し方に思いを馳せるようになるのではないのでしょうか。同じく私も、人間性を忘れ、ただ経済的豊かさのみを是とする世への疑問、また科学万能の旗を掲げ自然への畏敬の念なく環境破壊に走る傲慢な風潮、科学をなりわいとしてきた私には何か腑に落ちない物が残りました。

これらが因となり、第二の人生は、精神性を重んじた「心の問題」に取り組むことにしました。定年退職を機に、駒澤大学仏教学部禅学科へ、再び学生生活に戻りました。つくばの自宅から片道三時間の通学は肉体的には厳しいもが有りました

## がまの油売り口上、73歳の初舞台

### 日高 哲 男

が、日々が発見の楽しいものでした。

「禅」は悟りを扱う難しい学問です。私は学部だけでは理解できず、修士課程へ進み、更に博士課程まで、十年余り大学へ在籍する事になりました。一方、禅は体験を重んじる

宗教とも言えます。学業を終えて皮肉なことですが、知識に走る、頭でつかちの自分にも気付かされてしまいました。

禅者の境地を表すものに「ぶらりと手を下げ瓢と杖を携え、飄飄と、どん腹を肌ける人」の図があります。私は、この

図が教えてくれる「禅の心（和光同塵）」を、「遊行期」のテーマとして目指す事にしました（女房はいとも簡単に言います「アナタ、足りないのは、やわらかさよ！」と）。

時同じく平成二十六年、目にした新聞記事、「がまの油売り口上研究会」が主催する『大道芸がまの油売り口上講座』募集案内でした。何か糸口を探していた私は「これだ！これを手掛かりに第三の人生を歩むか」と、早速「小町の館」に於ける講習会へ参加する事にしました。

九月二十七日を初日とする四講座は、座学に始まり、実技を伴う売り口上の練習と多岐に渡る内容でした。講座の閉め、林会長から「研究会」の

運営方針・活動内容を伺い、その素晴らしさが気に入りに入り、早速入会手続きと「小町塾」への登録をお願いしました。幸い、私は練習参加から一年半でデビュー出来ました。これは、諸先輩方の懇切な指導あつてのものだと思います。

所で、会員の中にはボランティア活動に熱心な方が多数おられます。小町塾の三浦さんは献身的に活動されているとお聞きし、私が十年來手伝う坐禅会の覚王寺住職（つくば市花室）にこの件を話したところ、地域のお年寄りが楽しみにしている覚王寺薬師万燈会へ出演願えないかと、打診を受けました。

薬師万燈会の日、蠟燭燈る薄暗い境内の中、三浦さんの話芸の素晴らしさ、笑い転げるお年寄りの面々、端近で拝見した私は、「がまの油売り口上」がもたらす笑いの力を改めて思い知らされました。当然の事ですが、この夜の感動が、私の背中を押し「下妻道の駅」の初舞台に繋がりました。

私達は、様々な人達と縁を持つ中で、人と物のお陰を被り、ほんの一時期、今の世で生きる事を許されていると思います。今の世が物欲一辺倒から、貧しくとも精神性を重んじる世に変われば、皆が助け支える、住み良い社会になるのではないのでしょうか。人生の最終コーナー「遊行期」を前に、私は、そのような世を願い、また御縁を頂いた「がまの油売り研究会」の活動を通して、社会の一隅で、お役に立つ人生が送れば幸せに思います。



# はじめての船の旅

世界自然遺産小笠原(父島)

佐藤 貞弘



一月に大洗発着クルーズの説明会が常総市でありました。六月の五日間の船旅で父島滞在八時間だけの予定(荒天の場合日は上陸無し)であり、せつかく父島に来ているのに風雨の船窓から眺めるだけの旅となる可能性もありましたが、別の楽しみに心ひかれ当日会場で申込みました。

何せ、船でしか行けない伊豆諸島最南端の離島「鳥島、孀婦(そうふ)岩」を経由するという、イベントと食事に満たされた県内発着クルーズの初体験の旅なのです。(大洗港へ父島は約一千百キロ南)

六月十九日、大洗磯前神社にお参りして「にっぽん丸二万二千トン」に乗船。夕方五時に五色のテープ、ドラの音と大洗高校マーチングバンドの華麗な演奏に見送られ、大洗港を出港しました。

夕食は、信楽製大陶板画が一際目を引くメインダイニングでできたての美味を食し、食後は二層吹き抜け



鳥島

のメインホールでコンサートを楽しみ、その後は上階船首部分の眺望自慢のラウンジでコーヒーを飲みながら余韻に浸りました。これが毎日続くのです。何と優雅なことでしょうか。さらに翌日からの朝・昼食は、大海原を見ながらオーシャンダイニングで楽しみました。

二日目に待望の離島へ接近です。午後二時鳥島を左回りに周回、午後五時孀婦岩を右回りに一周。三日目の朝父島到着。船が大きく二見港に接岸できなないので沖に停泊、通船により上陸です。強い日差しの中、ホウオウボクの真赤な花の歓迎です。山手には白い花のムニンヒメツバキが咲き、その周辺はパイナップルのような実をつけたタコノキや、大きなリュウゼツランが群生していました。

島内はバスで移動、西側展望台から南島や母島を遠望し、兄弟島の見える宮之浜を



孀婦(そうふ)岩



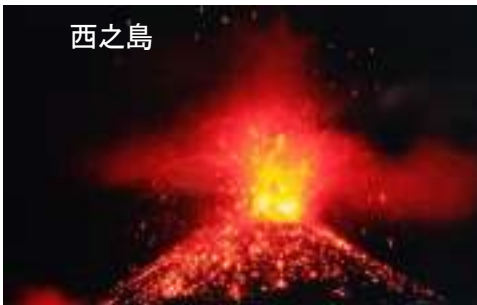
小笠原父島

笠原マリンプルーの海と停泊中につぼん丸を眺めてゆっくり過ごしました。

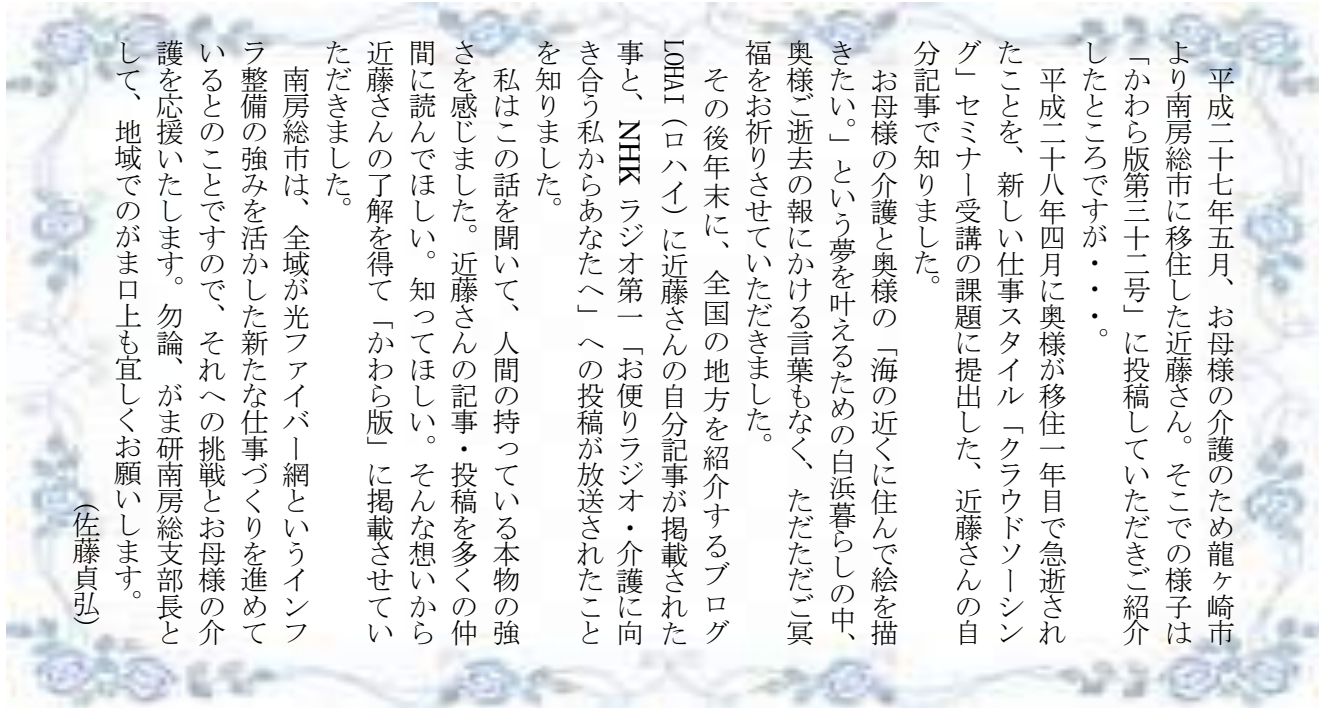
夕方五時過ぎお別れです。大漁旗をなびかせた多数の漁船に見送られ、船は予定を変更して進路を西にとりました。夜九時過ぎ、暗闇の中ごう音とともに火柱を上げ溶岩を吹き飛ばす噴火活動中の西之島に接近、六百メートルの距離から噴火を見ることができました。四日目は終日航海、五日目の六月二十三日十時、大洗港に無事帰港となりました。ただいまです。

今回の船旅では二回の服装指定「スマートカジュアル」がありました。その目安は、ジャケットを羽織ってスマートに「ちよつとよそ行き」のスタイルです。その時には気分も変えて「○○デナー」カクテルパーティー「○○コンサート」等のイベントを大いに楽しみました。それ以外の日中や夕方は自由な服装で多くのイベントに参加しました。その中で、船の照明を落とした満天の星空教室では、南北に横切る夏の天の川を見ることができ感激しました。

今回の旅先は四十年以上前に地図作成で訪れた島々であり、特に鳥島、孀婦岩はもう二度と見ることは無いだろうと思っていたので感慨ひとしおなのです。船の旅がとても好きになりました。



西之島



平成二十七年五月、お母様の介護のため龍ヶ崎市より南房総市に移住した近藤さん。そこでの様子は「かわら版第三十二号」に投稿していただきご紹介したところですが・・・。

平成二十八年四月に奥様が移住一年目で急逝されたことを、新しい仕事スタイル「クラウドソーシング」セミナー受講の課題に提出した、近藤さんの自分記事で知りました。

お母様の介護と奥様の「海の近くに住んで絵を描きたい。」という夢を叶えるための白浜暮らしの中、奥様ご逝去の報にかける言葉もなく、ただただご冥福をお祈りさせていただきました。

その後年末に、全国の地方を紹介するブログ LOHAI(ロハイ)に近藤さんの自分記事が掲載された事と、NHK ラジオ第一「お便りラジオ・介護に向き合う私からあなたへ」への投稿が放送されたことを知りました。

私はこの話を聞いて、人間の持っている本物の強さを感じました。近藤さんの記事・投稿を多くの仲間読んでほしい。知ってほしい。そんな思いから近藤さんの了解を得て「かわら版」に掲載させていただきます。

南房総市は、全域が光ファイバー網というインフラ整備の強みを活かした新たな仕事づくりを進めているとのことですので、それへの挑戦とお母様の介護を応援いたします。勿論、がま研南房総支部長として、地域でのがま口上も宜しく願います。

(佐藤貞弘)

「現地人のみが知る！南房総のおもしろ人物！」

おもしろ人物、「がまの独売り」近藤ひろしさんをご紹介します。

< 移住してきた「がまの独売り」 >

「さよーさお立会い、ご用とお急ぎでない方は、ゆっくりと聞いておいで見ておいで…」このセリフで口上が始まります。最後に、刀で腕を切って血を流し、高巻の「がまの袖」をつけて血を止めてみせる。腕製を入れずにそれを売りつける、あれです。



近藤さんは、昨年家族3人で、がまの狭み地(すみか)筑紫山のふもと、安房郡から南房総に移住してきました。奥様の、「海の近くに住んで絵を描きたい」という希望を叶えるためでした。ところがその奥様は、今年4月に急逝してしまいました。

< 南房総は不便ですが「赤ひげ先生」がいます >

慈しみとあなごの五輪さん、けなげに語ります。「僕の住む南房総市白浜は不便なところです。以前、電車で乗って買い物客が来るようなところに住んでいましたから。「ここは医療過疎地で、近くにクリニックは数えるほどです。だからとって、ここの人々の平均寿命が短い」といえば、そんなことはありません。「日頃お世話になっている『白浜中央病院』の院長・鈴木孝人(すえと)先生に診察していただくと、私たちの国の医療もすぐたものではない、と実感します。「次の患者さんが待っているのに大丈夫だろうか、と思ってしまうほど時間をかけて救急・丁寧で診察してください。鈴木院長こそ、「赤ひげ先生」です。



< 人寄せに気合が入る南房総市 >

地元紙には、毎日のように南房総市への人や企業などの誘致施策の記事が載ります。人口減少への危機意識に燃焼した、南房総市の意気込みが感取られます。ひとつだけ例を挙げますと、「空家バンク」の制度があります。南房総では、移住を希望する人が住む家を見つけやすくなっています。近藤さんも、この制度を利用したと言っていました。その他にも、移住者に「気くばり」いっぱい、「田舎暮らし」をお考えの方、南房総は有力候補になります。



<空家バンク登録中の風情ある家>©F

2016年12月23日(金)

天皇誕生日

NHK ラジオ第一 午前11:30頃

「お便りラジオ・

介護に向き合う私からあなたへ」

このラジオ番組で、君枝さんの長男つまり近藤博さんの投稿が、ほぼこのままの文章で放送されました。

「このケガがよくなったら、みんなで一杯やろう！」

母が頭部負傷のため、救急車で搬送中、救急隊員に投げかけた言葉です。

隊員一同大笑い。

日頃緊張を強いられる救急隊員も、一瞬ホツツしたことでしょう。

この母は、認知症・要介護3です。ケガは出血が多かったものの軽傷で、入院せず自宅へ戻ることができました。

母にお見事と言ってあげたいです。ささやかな社会貢献と言っては、言い過ぎでしょうか。

介護の日常にはこんなこともあります。

※母とは近藤君枝さんのことです

LOHAI(ロハイ)に掲載された近藤さんの記事



涼み台から遺構復元広場を一望。休憩施設として、四阿（あずまや）も設けられている。

新緑の筑波路めぐりハイキング、本年も我が会の人気講師である井坂敦實氏を拝み倒して実施の運びとなりました。

「筑波山周辺の歴史や文化財及び自然環境等の調査研究」に基づき始めたこのイベントも、ほぼ近辺を歩き尽くした感がありました。が、平成二十一年から七年をかけた発掘調査の成果をもとに、小田城遺構復元広場と案内所が、歴史ひろばとして復元整備されました。ここに行かない訳にはいかないとはかり十八名の参加者が集い、鎌倉から戦国時代に至る侵略と攻防の歴史をしのびました。

## 新緑の筑波路めぐり



昼食後、極楽寺跡まで足を伸ばし、五輪塔の前にて集合写真に納まる。

### 『新緑の筑波路めぐりハイキング』の足跡

- 平成 22 年度 『筑波山麓』 神郡・六所・白井・立野・沼田地区
- 23 年度 雨天中止
- 24 年度 『小田地区』
- 25 年度 『北条地区』
- 26 年度 『筑波山神社周辺』
- 27 年度 『小野小町の里』
- 28 年度 『高岡・藤沢地区』
- 29 年度 『小田城跡 歴史ひろば』

### 編集後記

時々暑かった（？）今年の夏。玉稿のほうも厚く熱く、泣く泣く原稿の一部をカットさせていただいたことを、お詫びします。

ほんの少し元氣になられた近藤さんの許可を頂き、活動の一端を掲載させていただくことが出来ました。当たり前の日常を大切に過ごさなくては思い直し、やはり漠然と過ごしてしまう自分があります。反省。

今回は、忘年会の会場予約に時間がかかり、かわら版のお届けが遅れました。重ねてお詫びいたします。

原稿送付アドレス [tgod6474@i-next.ne.jp](mailto:tgod6474@i-next.ne.jp)

編集 子

